

ちばの地域福祉

中核地域生活支援センター大会 in 2016 を終えて

中核地域生活支援センター大会 実行委員長 民内 順子

今年度で4回目を迎えた、中核地域生活支援センター大会 in 2016 が千葉市生涯学習センター2階ホールにて開催されました。今年度のテーマは「自立を育む地域社会を考える～子どもたち・若者たちの声、聞こえていますか～」とし、児童・若者の分野において先駆的な取り組みをされておられる方々をお招きし御講演いただきました。今回の大会には、定員300名を超える多くの方々が参加され、子どもや若者の問題に対する関心の高さがうかがえました。

基調講演は、北海道において虐待、不登校、精神疾患、自殺未遂など、様々な生きづらさを抱えた若者たちの自助グループFrame Free Project(フレーム・フリー・プロジェクト; FFP)をサポートする日置真世さんと、FFPのメンバーである7人の若者たちにも登壇いただき、活動内容や支援される側の意見や悩みを率直に語っていただきました。支援者はとかく社会の枠組みにはめ込もうとする支援に走りがちですが、それは必ずしも当事者が望む方向性ではなく、むしろ受けづらく応えにくい支援になっていることを改めて認識させられた貴重な御講演でした。

午後からは、中核地域生活支援センター活動白書の報告として、子どもの年代、若者の年代に焦点をあてた事例を紹介し、様々な困難の中でもがいている子どもや若者たちの状況に対し、中核センターもまた苦悩しながら活動していること。相談支援活動の分析では、児童でも高齢者でもなく、障害認定も受けていない稼働年齢の方々の相談を中核センターが担い対応していること等の報告がなされました。

シンポジウムでは、テーマを「私たちに出来ること」とし、千葉県内で活躍されておられる社会福祉法人生活クラブはぐくみの杜君津 施設長・高橋克己さん、千葉県立障害者高等技術専門学校・主査・石川豪志さん、市川こども食堂ネットワーク・副代表・梅澤岳さん、三人のパネリストの方々から、各事業所の活動の様子を発表していただきました。基調講演をいただいた日置さんと若者たちも加わり、パネリストの方々にそれぞれの立場から鋭く、意見や質問を交換していただくことにより、具体的で深みのある有意義なシンポジウムとなりました。

今回、この大会に寄せられた意見として、「本音で支援される側の心情を語る若者の姿に驚きの連続でした」「若者たちの声を聞き、日頃の相談支援のあり方を見直すきっかけとなりました」「初心に帰れた」等々の感想をいただきました。来年度も皆様からいただきましたご意見を基に、より良い大会を目指していきたいと思っております。

今大会に対し、多くの皆様方のご参加・ご支援をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



ちから ちばの福祉力・社会資源

「彼らのために」ではなく「彼らと共に」

公益財団法人 千葉県肢体不自由児協会
理事長 臼井正一

私ども千葉県肢体不自由児協会は昭和 44 年に財団法人として発足し、平成 24 年 4 月に公益財団法人に移行いたしました。公益性を持った事業を行うということで、それまでの「手足に障がいを持つ子どもたち」への支援だけではなく、県民の方々に様々な障がいを持つ人たちへの理解を深めてもらうための広報活動や資金確保のための募金活動・ボランティア育成などの事業を行っています。また、当協会の傘下にあります「ボランティアの会」は毎年社会人、学生を含め 50 名程度のボランティア登録があり、「彼らのためにではなく、彼らと共に」を合言葉に様々な研修や活動を行っています。障害児のデイサービスの利用などが増えている昨今、学生ボランティアは介助だけでなく子どもたちのこころの支えになっているところも多分にあります。

さらに、協会発足当初からの事業でもあります、車いす貸与事業も今年度から障がい児者だけでなく、健常な方の急な事故や病気などにも対応できる「緊急車いす貸与事業」を開始しました。車いすは特別な人が使用するものではなく、健常な人でも突然の事故や病気によっていつ利用しなくてはならなくなるかわかりません。こういった事業が地域に浸透し、ボランティア育成や募金活動への推進につながりお互いが共存しあえる社会になることを願っております。

最後にこれからの当協会のあり方、存続を考えますと地域とのつながりが不可欠となってきます。共に生きる共存こそが地域福祉につながるのだと思います。一昨年から始めました事業で福祉の情報提供の場として「福祉の広場」の開催があります。福祉に対する情報提供と社会福祉センターの役割などをしってもらうことが大きな目的でもあります。

今後も、中核地域生活支援センターおよび地域で活動する福祉施設・団体等との連携をはかりながら事業をすすめていきたいと思っております。



子どもたちとボランティアさんの活動
「ふれあい広場」



福祉に関する情報提供「福祉の広場」
今年も社会福祉センターにて開催予定

ちば・元気印！～こんなひとたち、見つけた～

株式会社 dearmilieus 代表 豊島 大輔 氏

今回は船橋市で新たにグループホーム事業の展開を始められた「レリG」 代表の豊島氏にお話をお聞きしました。

ありの～ままの～♪…2013年度アカデミー長編アニメ映画賞受賞作品である、「アナと雪の女王の主題歌」一時どこへ行ってもこの曲が流れていた覚えがあります。“ありのままのあなたには数えきれないほどの強みがある”を理念に、グループホームレリGを立ち上げました。

グループホームレリGの強みは・・・

- ① プライバシーが守られたアパート1Kタイプ！全室個室のエアコン完備。
- ② 専門スタッフによる24時間サポート体制。
- ③ 日常生活(金銭管理・服薬管理・栄養指導、その他個別相談)の徹底サポート。
- ④ 社会資源、関係機関との連携の徹底です。



グループホームは“地域の中で自立した生活を目指すために練習をしていく場所”ではありますが、“自分と向き合い、自分を改めて知り、自分とうまくつきあっていくことを学ぶ場所”でもあるのではないかと思います。

感情的になるとモノにあたってしまふ、落ち込むと部屋の片づけができない、お金がないからご飯を食べない…どれも一番つらいのはそのひと本人なのです。気分の波があってもいいんです。でも今よりもすこし小さくしていけたら気分はどうですか？小さくするにはどんなことをしてみたらいいでしょうか。

レリGでは利用者さんとしっかり向き合いストレングスを大切にしながら、自立した生活をしていくには具体的になにが必要で、どうしたらできるようになるかを一緒に考え、その目標に向けてともに歩み進めていくなかで、エンパワメントをより高められるような支援体制をつくっています。

この地域にまた一つ、生きづらさを抱えた人たちへの「暮らしの場」「暮らしづくり」に対して熱い思いを抱いたスタッフの笑顔が印象的でした。

レリG

●千葉県船橋市三山 1-4-10-105

●TEL・FAX 047-409-9998

●HP <http://www.dearmilieus.com/>



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

千葉県男女共同参画センターフェスティバル 2016&ネットワーク会議

◆日時 平成 28 年 8 月 7 日 (日) 9:45～16:30 (9:15 受付開始)

◆会場 千葉県青少年女性会館
千葉市稲毛区天台 6-5-2

◆内容

講演 (9:45～12:00)

心のストレッチ ～笑顔で明日を迎えるために～

講師 佐久間 レイ 氏

ワークショップ (13:00～15:00、12:30 受付開始)

A 音楽の楽しみ

B 親子ふれあい夏祭り

C 熊本地震！何が起こったか？

D 漂流少女によりそって

E 助産師によるベビーマッサージ講座

F 心に沁み入るピアノの世界

ネットワーク会議 (15:15～16:30)

ワールドカフェ形式で情報交換

【お問い合わせ先】

千葉県男女共同参画センター

TEL 043-252-8036 FAX 043-252-8027

【参加費】 無料

平成 28 年度 千葉県福祉教育研究大会

◆会場 千葉大学西千葉キャンパス 総合校舎 (午前 2 号館、午後 4 号館)
千葉市稲毛区弥生町 1-33

◆内容

午前 基調講演

テーマ「子どもの生活課題と福祉教育」

講師 日本福祉大学准教授 野尻 紀恵 氏

午後 実践発表・研究協議 (分散会)

○実践発表「平成 26 年度指定福祉教育推進指定校実践発表」

○実践発表「平成 26 年度指定福祉教育推進団体実践発表」

○研究協議「地域と学校が連携して福祉教育を進めるためには」

【参加申し込み】

8 月 12 日までに申込書を下記へ FAX

社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

担当 ボランティア・市民活動センター 菊地

FAX 043-204-6015 TEL 043-204-6010

【参加費】 一人 1000 円/当日会場受付にて

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：ひだまり (安房圏域) 館山市山本 1155

TEL 0470-28-5667

FAX 0470-28-5668

編集：さんびエリアネット (山武圏域) 山武市成東 189-3

TEL 0475-53-5208

FAX 0475-80-2808

※内容についてのお問い合わせは、さんびエリアネット (担当：秋山) までお願いします。